

① 関係自治体	牧之原市、藤枝市、焼津市、吉田町		
② タイトル			
(ふりがな)	たぬまかいどうとまぼろしのしろ		
田沼街道とまぼろしの城			
③ ストーリーの概要			
<p>東遠江の海沿いの街道は、「田沼街道」と呼ばれる。その名は、江戸時代の老中「田沼意次」に由来する。賄賂のイメージが強いが、その実は「またうどのもの（正直で律儀な人）」と将軍に評された為政家であった。意次の手腕は領国経営にも活かされたが、失脚によりこの地を去る。居城相良城は、わずか8年間のみ幻の城となった。しかし、意次の功績は、人々の記憶に残った。意次が通った道は、大井川の新たな渡河場に認められ、地域の流通を活性化させた。この道を、意次を慕う人々がいつしか呼ぶようになった名が「田沼街道」である。城下と街道沿いには、意次の遺産が、静かに佇んでいる。</p>			
			
相良城跡に佇む意次像		大鐘家前の田沼街道	
④ 代表連絡先			
担 当	牧之原市教育文化部大河ドラマ活用推進室 文化振興係		
電 話	0548-53-2626	FAX	0548-53-2657
E-mail	bunka@city.makinohara.lg.jp		
住 所	〒421-0592 牧之原市相良 275		

ストーリー

○もう一つの東西街道

東西交通の大動脈である東海道は、京に向かい江戸を発ち、駿府を過ぎると暫時、山あいに行く。駿府から西に向かう街道は、東海道の他にも海沿いに行く道がある。その一部は、いつしか「田沼街道」と呼ばれるようになった。

「田沼街道」は、東海道の藤枝宿と東遠江の城下町・港町である相良を結ぶ道だ。街道は、多くが目的地や経由地を名に冠するが、この街道は人名に由来する。江戸幕府の老中を務め、相良藩主であった田沼意次である。



田沼街道（相良側起点）

○「またうどのもの」

徳川幕府9代・10代将軍に仕え、史上唯一の老中兼側用人だった田沼意次。「賄賂」のイメージが巷間に流布するが、その実は「またうどのもの（正直で律儀な人物）」と将軍に評された為政家である。意次の政策は、それまでの米中心の経済とは異なり、商工業の発展や流通の促進による経済の活性化を目指すものであった。近代化の先駆けとも言える政策の展開は、人々の生活にゆとりをもたらし、田沼時代と称される芸術・文化の花開いた新時代を生み出した。



田沼意次像（牧之原市史料館所蔵）

○相良の殿様と「田沼街道」

宝暦8年（1758年）、相良藩一万石の大名となった意次は、明和5年（1768年）に相良城の築城に着手。安永9年（1780年）には、完成した相良城と領内の見分のため、生涯唯一となる領国へのお国入りを果たすが、天明6年（1786年）に失脚すると、相良城は破却され、田沼家は相良の地を去る。



天保13年（1842年）の古絵図に記される「田沼街道」
「釘ヶ浦諸村絵図」（個人蔵）より抜粋

転封に伴い城と共に多くの記録が失われたため、実のところ、相良藩主としての意次の事跡は不明な点が多い。「田沼街道」という名も、意次が名付けたものではなく、その在世時には、この呼び名さえなかった。しかし、天保13年（1842年）の古絵図には、その名が記されている。意次の死去から時を経ずして、この地の人々が自ずと呼んだ名が一般名称として浸透していた。人々が過去の領主を街道名とした背景には、「越すに越されぬ」と詠まれた大井川の存在がある。

○もう一つの、大井川越え

当時、相良から陸路で江戸を目指すには、牧之原台地を北上し、唯一の川渡しの場である金谷・島田間で大井川を渡って東海道を進むのが公式ルートであった。意次もこのルートを逆に辿り領国入りした。一方で、海沿いを進み、小山（吉田町）・相川（焼津市）間で大井川を渡り、藤枝宿に至る道もあったが、下流（下瀬）を渡ることは、御法度の非公式ルートであった。

しかし、意次は江戸への帰還時に、このルートを通り下瀬を超えた。この道こそ「田沼街道」である。幕府の重臣である意次が、この道を公式なルートとしたことにより、地域の流通が活性化し、街道沿いの産業が振興した。もう一つの大井川の渡河地点を持つ「田沼街道」。その名は、意次の功績や威光を称えるために、領民や街道沿いの住民が使い始め、この地に定着した。古絵図に記された道筋は、今も辿れる部分があり、記された地名も多く残り、意次が歩んだ街道の姿を体験できる。

○幻の城「相良城」と意次の足跡

完成からわずか8年、近世で日本一短命な城となった相良城。往時のものは殆ど失われてしまったが、意次が整えた城下の町割は、現在の市街地の区画に引き継がれた。相良城の一部は、意次を慕う人々により散逸を免れ、領内や街道沿いの寺院に奉納された。断片的に残る石垣や土塁、移された建築部材や調度品、城下の面影を伝える町割を巡り、繋いで浮かぶのは、幻の相良城の姿であろう。

意次は、領内の寺社も手厚く保護した。将棋のタイトル戦が行われる牧之原市の平田寺もその一つである。平田寺は、田沼家歴代の御位牌を祀る香華寺として知られる。意次は将棋を嗜み、領国でも将棋が盛んとなった。牧之原市の旧家からは、領民が作った約200年前の詰将棋が発見されている。

○受け継がれる意次の遺産

不明な点が多い、意次の領国経営であるが、断片的に残る足跡からは、小さな港町・陣屋町だった相良は大きく変貌を遂げ、領内や街道沿いの地域も新たな時代を迎えたことがうかがえる。

意次が、特に力を入れた領内の産業が製塩である。信濃に至る「塩の道」の起点でもあった相良の海岸沿いに、塩田を作ること奨励し、資金援助に加え、塩を年貢とすることも認めた。

陸の道だけではなく、海の道にも注目した。湊を整備することで、領内で産出された石灰、特産物である塩や海草のサガラメ、梅干、鰹節、茶等も海路で江戸に運ばれることとなった。湊の交易は、地元の人々により引き継がれる行事となって名残を伝える。牧之原市内の神社で行われる「御船神事」は、相良湊の廻船問屋による海上安全・商売繁盛に端を発する行事である。意次が進めた流通による地域経済の発展は、伝統行事に形を変えた。

食文化にも名残がある。牧之原市には、鯖の塩漬けや小魚の梅酢漬け、鰹をサガラメで巻いて煮た“めまき”などの郷土料理があるが、これらも意次が領内の産業に尽力した賜物といえる。

地元において意次は現在のまちの礎を築いた名君である。田沼家にちなむ名物開発や顕彰事業が盛んに行われてきた。その活動は昭和40年代に本格化するが、その元は「田沼街道」であった。

意次が認め、意次が歩き、意次が残した文化と遺志に触れられる全国唯一の道「田沼街道」。この道を辿り、城下をまわれば、意次が起こした新たな風の余韻を感じることができるだろう。



田沼街道下瀬越跡（焼津市）



御船神事



田沼意次侯顕彰銘菓「二朱銀」

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
1	たぬまおきつぐぞう 田沼意次像	未指定 美術工芸品	牧之原市史料館が所蔵する田沼意次の肖像画。意次 40 代の姿。	牧之原市
2	くぎがうらしよせんえず 釘ヶ浦諸村絵図	未指定 美術工芸品	「田沼街道」の名が記された天保 13 年 (1842 年) の古絵図。写しを牧之原市史料館で公開。	牧之原市
3	みなとぼし 湊橋 (田沼街道相良側起点)	未指定 史跡	田沼街道は、萩間川に架かる湊橋を起点とした。近くの大和神社そばには、市民が建てた起点の碑がある。	牧之原市
4	おおがねけじゅうたく 大鐘家住宅	国指定 建造物	主屋は 18 世紀初期、長屋門は安永 10 年 (1781 年) の建築。目の前を田沼街道が通り、当時の景観を伝える。	牧之原市
5	さんちょうめ どうひょう 三丁目の道標	市指定 史跡	田沼街道に建てられた道標。天保 7 年 (1836 年) の建立。「かけ川道」「大井川道」「さがら道」と刻まれている。	牧之原市
6	のうまんじ 能満寺のソテツ	国指定 天然記念物	樹齢 1000 年と言われるソテツ。意次は、安永 9 年 (1780 年) のお国入りの際、能満寺で休憩をとった。	吉田町
7	たぬまかいどうしもせごえあと 田沼街道下瀬越跡	未指定	田沼街道における大井川越えの経路跡 (左岸)。	焼津市
8	かちくさばし 勝草橋 (田沼街道藤枝側起点)	未指定 史跡	藤枝宿の西木戸を出て瀬戸川を渡った袂から、田沼街道が分岐した。田沼の時代には橋はなく徒渡りだが、現在は勝草橋が架る。	藤枝市
9	さがらじょうし 相良城址	未指定 史跡	田沼意次の居城・相良城の跡地は、現在も相良の中心地である。城下は、横井金谷の『金谷上人一代記』にて「富商大家あり」「大湊」と形容されるほど繁栄した。	牧之原市
10	さがらじょうに まる 相良城二の丸のマツ	市指定 天然記念物	相良城の二の丸土塁跡に生育するマツ。現在、二の丸跡には相良小学校が建っている。	牧之原市
11	せんたいがし 仙河岸	市指定 史跡	相良城外堀の石垣。城内と相良湊を繋ぐ船着き場の跡で、仙台藩主・伊達家寄進の石材で築かれたという。	牧之原市

12	へいでん じ ほんどう 平田寺本堂	市指定 建造物	天明6年(1786年)に意次が建立。田沼家専用の玄関を備える。境内には、意次の嫡男・意知の供養碑もある。	牧之原市
13	だいたく じ ほんどう 大澤寺本堂	市指定 建造物	寛政3年(1791年)の建立。相良城の木材を転用したとされ、床下に痕跡が残る。彫刻や堂内の襖絵も見どころ。	牧之原市
14	ほんにや じ きがら じょうすぎ と 般若寺の相良城杉戸	市指定 絵画	虎や鳳凰が描かれた狩野派による杉戸絵。相良城本丸御殿のものという。地元の人々が守り伝えた田沼家ゆかりの宝物の一つ。	牧之原市
15	じんたいこ 陣太鼓	市指定 工芸品	田沼家の家紋入りの太鼓。海賊退治など多くの伝説が残る。地元の人々が守り伝えた田沼家ゆかりの宝物の一つ。	牧之原市
16	じょうしん じ さんもん 浄心寺山門の てら だ どうせんさくくりゅう ちようこく 寺田洞仙作龍の彫刻	市指定 彫刻	寺田洞仙は、田沼時代に活躍した狩野派の郷土画人で、相良藩の御用絵師ともいう。田沼領となった当地域の文化を伝える作品。	牧之原市
17	さがら ね あが 相良の根上りマツ	県指定 天然記念物	根が地上に高く表出したマツ。相良城下を守っていた防風・防潮林の名残で、当時の景観を現在に伝える。	牧之原市
18	おか べ な がちかほうのう え ま 岡部長慎奉納絵馬	市指定 歴史資料	藤枝の発祥で、当時は岸和田藩主であった岡部氏が、相良城の接收役を無事務めたことを記念して、若宮八幡宮に奉納した絵馬。	藤枝市
19	だいけい じ くり 大慶寺庫裡	未指定 建造物	相良城の破却後、売却された部材を転用したと伝わる。柱や梁、小屋組が当時のものという。	藤枝市
20	さがら じょうじ かみ いしとびら 相良城地の神の石扉	未指定 建造物	相良城本丸に祀られていた地の神の社の扉と伝わり、船問屋岡部屋から教念寺へ寄進された。	焼津市
21	お ふねしん じ 御船神事	国指定ほか 無形民俗	海運業の繁栄を伝える神事。市内4か所の神社で行われ、大江八幡神社の御船行事は、国の重要無形民俗文化財。	牧之原市
22	てんじんやま お かみせつかいがん 天神山男神石灰岩	県指定 天然記念物	県内では珍しい石灰岩の山。ここから採れる石灰は、当地域の特産品として、相良湊から江戸に運ばれ、江戸の町を飾る漆喰となった。	牧之原市
23	さがら じょうか きょうどりょうり 相良城下の郷土料理	未指定 無形民俗	鱈の塩漬けや小魚の梅酢漬け、鰹をサガラメで巻いて煮た“めまき”など、その素材は、意次が奨励した産業とも関連。	牧之原市

構成文化財の写真一覧

①田沼意次像



②釘ヶ浦諸村絵図



③湊橋（田沼街道相良側起点）



④大鐘家住宅



⑤三丁目の道標



⑥能満寺のソテツ



⑦田沼街道下瀬越跡



⑧勝草橋（田沼街道藤枝側起点）



⑨相良城址



⑩相良城二の丸のマツ



⑪仙台河岸



⑫平田寺本堂



⑬大澤寺本堂



⑭般若寺の相良城杉戸



⑮陣太鼓



⑧浄心寺山門の寺田洞仙作龍の彫刻



⑰相良の根上りマツ



⑱岡部長慎奉納絵馬



⑲大慶寺庫裡（向かって右）



⑳相良城地の神の石扉



㉑御船神事



㉒御船神事



㉓相良城下の郷土料理



市町の位置図



構成文化財の位置図



拡大図 1 (牧之原市①)



拡大図 2 (牧之原市②)



拡大図 3 (焼津市・吉田町・牧之原市)



拡大図4 (焼津市・藤枝市)

黄線・・・田沼街道

赤字・・・田沼意次及び相良城に関連するもの

青字・・・当地域の産業に関するもの

緑字・・・田沼街道に関するもの